



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

「インド芸能の世界 with 人間国宝」

“飲み友”と言っても、お酒ではなくコーヒーのことだが、能楽師が言った。

「わが大魔王よ。願わくば、われを天竺に導き給え」

実のところ、わが輩は軽く受け流していた。それは超多忙な能楽師の夢想的願い、御愛想ごとだと思っていた。

それから三十五年が経過した。わが輩も、そろそろ隠遁生活を考える年頃になった。

昨年七月、その能楽師が人間国宝になった新聞記事を読んだときは驚いた。

(こつこつ歩んできた人は報われるものだね)

飲み友が再び曰く、

「隠遁する前に、インドに行きましょうよ！」

iPad を取り出して、スケジュールを探ると、来年の二月に空きがあった。一気に決まった。

さてさて読者諸氏よ。二年前に某有名女優をインド・パキスタンに案内する話が持ち上がったとき、本音を言えば気乗りしなかった。パキはテロがあるのでインドのようにはいかない。女優はスケジュールがタイトだ。もし、何かあれば責任重大である。結局女優は稽古があるので一人先にインドから帰ってくれた。

(内心ほっとしたよ)

飲み友もスケジュールがタイトである。帰国十日後にニューヨーク公演に飛び立った。

女優には一度も会ったことがなかったが、人間国宝は長い“飲み友”である。たびたび和菓子の差入れも頂いた。コーヒーやサンドイッチを御馳走になることしばしばである。

そう言えば、オゴリ返した記憶がないな。ちなみにわが輩の方が年長だよ。ああ恥ずかしや。

(ここで倍返しをしなきゃ、大魔王じゃない！)

単なる観光ではなく、ブッダに奉納公演をしたいというのが“飲み友”の希望であった。

まず、この旅のコンセプトを決めようじゃないか。ところで、「能楽」と「インド」がどこで結びつくのか。(うう～ん、困った)

天心と芸能をどのように結びつけるのか。ポインはヴィヴェーカーナンダとタゴールである。

読者諸氏はタゴールの人物史は知らなくても、名前だけは知っているだろう。ところがヴィヴェー

カーナンダについては殆どの人が知らない。

2013年、ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年関西祝賀会を裏で仕切ったのはわが輩である。これについては問題ない。知人関係者が多くいる。

タゴールについてはどうか。いるいる、あの人が。

その人との出会いもご縁である。古い古いお付き合いのある理系教授が、わが輩に語った。

「私の友人の実業家が、ある日南インドのアーシュラムに隠遁してしまった」

教授は全く精神世界に興味がない。むしろ否定的である。無神論者に近い。それ故、実業家の行動が理解できない様子であった。だから、どこに隠遁したかを知らなかった。

一方、わが輩はマルクス系国際経済学者とともに南インドの聖者のアーシュラムにしばしば訪問することになった。どういうわけかマルクスから“インド”に回心したからである。学者とは席を同じゅうして学んだこともある。はるかに年長だが、この世界ではわが輩のほうが“先輩”なので生意気にも偉そうにさせて頂いた。

そのアーシュラムの会長から依頼がきた。

「信奉者の女性が京都の大学に留学するが、心配なのでなにかと相談にのってほしい」

(もちろん。女学生なら、さらにOK)

最初京都の信奉者に頼んだが英語ができないので断られ、わが輩にお鉢が回って来た。

ところが、すでに京都に着いたはずなのに、一向に連絡がない。案じていると彼女から電話が入った。

(おーMy GOD!)

彼女は流暢な日本語を話せるではないか。わが輩より日本語が上手だ。

この女性が理系教授の友人の娘であることが、しばらくして分かった。

(ご縁だね)

それにしても、一体彼女は何ものなのか。何しに来日したのか。どこの大学の留学生なのか、次々に興味が湧きあがってきた。

次号で正体を明かそう。そして、人間国宝に、もう一人宗匠が加わるという話がでてきた。これで岡倉天心のコンセプトの骨格ができあがった。次号ご期待!